

# 前教育大綱に係る取組状況について

令和元年 5 月 9 日  
北九州市教育委員会



# 北九州市教育大綱

～ 子どもたちのシビックプライドの醸成 ～

## I 『北九州市子どもの未来をひらく教育プラン』の推進

### 北九州市教育の目標

「思いやりの心をもつ、自立した子どもをはぐくむ」

- ◎自分の可能性を信じ、夢や希望をもつ子ども
- ◎自分の力でやり遂げ、自立する力をもつ子ども
- ◎思いやりの心もち、行動できる子ども

### 子どもの未来をひらく教育を支える力

学校、家庭、地域それぞれがもつ教育力を発揮し、連携して子どもの教育を推進

## II 市全体で子どもの教育を支える4つの柱

### 1. 本市が誇る文化芸術・スポーツ、歴史などの特性を活かした教育の推進

- 本市ゆかりの先人や伝統文化など、地元の誇りとする文化を継承する取組みの推進
- 音楽や美術など文化芸術、スポーツに触れる機会の充実
- 将来の文化芸術、スポーツを担う人材の育成
- 環境未来都市としての独自性を活かした環境教育
- 地元企業などと連携・協力したキャリア教育

### 2. 市民総ぐるみで子どもの教育を支える取組みの推進

- 学校、家庭、地域の更なる連携の推進
- 小学校応援団など企業と連携した取組みの推進
- 家庭、地域や関係機関等と連携した防災・安全に係る取組みの推進
- 地域での子どもの居場所づくり

### 3. 特別な配慮を必要とする子どもの支援

- 障害のある子どもへの支援
- いじめ、不登校等へのきめ細やかな対応
- 子どもの貧困対策

### 4. 少子・高齢化社会を踏まえた公共施設マネジメント

- 行財政改革大綱を踏まえた公共施設マネジメント

平成27年11月18日

北九州市長 北橋 健治

## 1. 本市が誇る文化芸術・スポーツ、歴史などの特性を活かした教育の推進

- 本市ゆかりの先人や伝統文化など、地元の誇りとする文化を継承する取組みの推進
- 音楽や美術など文化芸術、スポーツに触れる機会の充実
- 将来の文化芸術、スポーツを担う人材の育成
- 環境未来都市としての独自性を活かした環境教育
- 地元企業などと連携・協力したキャリア教育

### 文化芸術に触れ・学ぶ機会の充実

#### ①ミュージアム・ツアー〔市民文化スポーツ局事業〕

小学校3年生を対象に、新たな美術鑑賞プログラム「ミュージアム・ツアー」を実施。世界的な名画を含む近現代美術のコレクションの鑑賞をはじめ、世界的な建築家磯崎新氏設計の建物の見学、美術館からの市内の眺望という3つの体験を通して、子どもたちの想像力と感性を育むとともに、シビックプライドの醸成を図る。

##### 【実績】

- ・H29年度試行実施：戸畑区と八幡東区の18校の小学校3年生927人
- ・H30年度本格実施：市内全小学校の3年生7,730人



ミュージアム・ツアー

#### ②中学校合唱フェスティバル、小学校合唱フェスティバル

音楽を通して、子どもたちの豊かな情操を育むとともに音楽や合唱に親しむ本市の文化的風土を醸成するため、合唱フェスティバルを実施。

##### 【実績】

- ・中学校：H27年度～ H30参加校22校
- ・小学校：H30年度～ H30参加校9校



中学校合唱フェスティバル

#### ③全国中学校総合文化発表会 福岡大会〔中文連事業〕

2020年8月、北九州市で、全国中学校文化連盟主催の中学校総合文化祭が開催予定。北九州芸術劇場をメイン会場に、全国から演劇、吹奏楽、合唱、スピーチ、美術、書写等の優秀作品を発表、展示。

#### ④東アジア文化都市2020北九州との連携

東アジア文化都市2020北九州への子どもたちの参加意識を高め、機運を醸成するため、市内の各小中学校等と連携した取組を検討。子どもたちが日中韓の文化や言葉の違いを体験することで、東アジアへの理解の促進とともに、芸術文化活動を通じた豊かな感性・創造性を育む。

### 本市の特性を活かした教育

#### ④SDGs未来都市としての特色を活かした教育の推進(SDGsの視点を踏まえた学校教育の推進)

##### ○地域教材資料集「(仮称)だいすき!北九州」の作成・活用

新学習指導要領でも示されている「持続可能な社会を創る担い手」の育成を図る。

- ・H31年度に作成、H32年度から配布・活用

##### ○SDGs環境アクティブ・ラーニング

小学校4年生全員を対象として、自然(平尾台・山田緑地等)に直接ふれたり、環境関連施設(環境ミュージアム、



山田緑地でのウォークラリー

北九州エコタウン等)を活用した体験活動を実施することで、主体的な学習に取り組む。総合的な学習の時間等の中で実施することで、環境の保全に取り組む態度の基盤となる関心・意欲の喚起を図る。

## スポーツに触れる機会の充実

### ⑤オリンピック・パラリンピック・ムーブメント事業【文科省委託事業】

東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会開催に向け、オリ・パラ教育推進校を指定し、一流のスポーツ選手と直接触れ合うことなどを通して、スポーツの素晴らしさや、国際的なマナー、人権等についての理解を深めるオリ・パラ教育を推進。

【実績】

- ・推進校 H29：20校・園、H30：31校・園
- ※派遣選手について市民文化スポーツ局との連携



ゴールボール選手との交流

### ⑥運動系部活動の成果

【実績】

- ・H30：全国高校女子駅伝大会 北九州市立高校  
全国中学校駅伝大会男子3位 曾根中  
全国中学校柔道大会男子団体3位 大蔵中
- ・H29：中体連バスケット全国大会2位 二島中



全国高校女子駅伝

## 地元企業などと連携・協力したキャリア教育

### ⑦小・中学校におけるキャリア教育

学校生活から社会生活へ円滑に移行できるように、小・中学校で連携しながら児童生徒の発達の段階に応じたキャリア発達を支援し、学校教育活動全体を通して望ましい勤労観・職業観を育成。

【実績】

- (小学校)・地域の探検 ・家族や身近な人の仕事調べやインタビュー  
・商店街、工場などでの職場見学 ・中学校の体験入学 など
- (中学校)・家族や身近な人の職業観聴き取り調査 ・職業人、社会人講話  
・職場体験活動 など



農業体験

### ⑧北九州ゆめみらいワーク【産業経済局事業】

小・中学生や高校生、大学生等を対象に、地元企業の仕事内容や地元大学の研究等について、直接体験できるイベントを平成27年度から実施。

【実績(例年、8月下旬の2日間(金・土))】

- ・H27 115団体 6,355人(うち中学生210人)
- ・H28 131団体 6,485人( // 172人)
- ・H29 139団体 6,586人( // 244人)
- ・H30 121団体 7,103人( // 232人)



ゆめみらいワーク

### ⑨【再掲】小学校応援団による出前授業

小学校応援団による出前授業、地元の企業人による講話などを通して、地元企業を知るとともに、キャリア教育にもつながっている。

## 2. 市民総ぐるみで子どもの教育を支える取組みの推進

- 学校、家庭、地域の更なる連携の推進
- 小学校応援団など企業と連携した取組みの推進
- 家庭、地域や関係機関等と連携した防災・安全に係る取組みの推進
- 地域での子どもの居場所づくり

### 学校、家庭、地域、企業の連携推進

#### ①【本掲】小学校応援団による出前授業

経済界と連携することで、企業がもつ人材や経営のノウハウなどを生かし、出前授業や児童向けの体験学習、教職員を対象とした研修などを実施。

##### 【実績】

- ・H23年10月発足、H29全小学校対象。



北九州エアターミナル㈱

	H27	H28	H29	H30
対象学校数 (校)	70	100	132	132
参加企業総数 (社)	231	261	439	449
事業実施延数 (回)	134	203	212	252

#### ②学校支援地域本部事業

教員が子どもと向き合う時間の確保や地域の教育力の向上を図るため、地域コーディネーターを配置する学校支援地域本部の設置校を拡充し、地域の協力のもと、さまざまな学校の教育活動を支援する体制づくりを推進。

##### 【実績】

- ・H21開始、H30全62中学校区設置

	H27	H28	H29	H30
設置数	47	52	57	62

#### ③スクールヘルパーをはじめとした市民ボランティアの活用

様々な市民ボランティアと連携し、地域人材との連携を推進

##### ○スクールヘルパー

	H27	H28	H29
延べ活動回数 (回)	124,804	116,813	110,358
延べ活動人数 (人)	14,779	16,630	15,639

##### ○子どもひまわり学習塾指導員

	H27	H28	H29	H30
講師登録者数 (人)	410	592	581	572



子どもひまわり学習塾

## ○部活動外部講師・部活動指導員

	H27	H28	H29	H30
部活動外部講師（人）	184	239	248	233
部活動指導員（人）	—	—	15	19

### ※部活動外部講師

専門的な技術的指導が困難な教員の負担軽減を図ることを目的として、競技の専門性を有する地域の人材を有償ボランティアとして活用するもの。

### ※部活動指導員

平成 29 年度開始。顧問教員の長時間勤務を改善するため、顧問教員に代わって、単独で、土・日・祝日の部活動指導（平成 31 年度からは平日の活動も可）や練習試合への引率業務を担うことができる指導員。

## 防災・安全に係る取組みの推進

### ④防災・安全教育の推進

保護者や地域との関わりを大切にしながら、市民とともに防災意識を高めるため、平成 24 年度に作成した教材「北九州市防災教育プログラム」を活用した学習、避難訓練、災害時連絡カードを活用した啓発の 3 つの柱で実施。

保護者や地域との関わりを大切にしながら、市民とともに防災意識を高める。



気象台講座

#### ○北九州市防災教育プログラムの活用

- ・近年の災害を踏まえ、想定される状況の追加や指導内容の補充等、改訂予定。

#### ○防災教育・避難訓練の実施

- ・全小中学校で避難訓練を年 3 回以上実施（学期に 1 回以上）
- ・地震・津波、火災、竜巻等、各学校で地域の実情を踏まえた内容
- ・地域や関係機関（気象庁・消防局）と連携した防災教育

#### ○災害時連絡カード

- ・毎年、新入園児、小、中、特別支援学校の 1 年生に対して配布
- ・災害時の避難箇所、避難の心得を子どもと保護者が相談しながら共有、確認

#### ○関係部局や市民等と連携した通学路の安全確保

- ・「通学路の安全点検」（建設局）、「地域安全マップづくり」（市民文化スポーツ局）
- ・保護者や地域の生活安全パトロール隊、スクールヘルパー等の見守り活動

## 地域での子どもの居場所づくり

### ⑤放課後児童クラブ〔子ども家庭局〕

#### 【実績】

- ・ H30：134 か所 登録児童数 12,347 人
- ・ 放課後児童クラブアドバイザーや巡回カウンセラーの派遣等を実施

### ⑥子ども食堂〔子ども家庭局〕

保護者の帰宅が遅くなる家庭の子どもに対し、親が帰宅するまでの間、学習支援や食事の提供を行う。

#### 【実績】

- ・ H28：2 か所
- ・ H29：9 か所、活動支援のための助成制度を創設
- ・ H30：21 か所、コーディネーターを配置



子ども食堂

### 3. 特別な配慮を必要とする子どもの支援

- 障害のある子どもへの支援
- いじめ、不登校等へのきめ細やかな対応
- 子どもの貧困対策

#### 障害のある子どもへの支援

##### ①特別支援教育を推進する場の整備

【実績】

- ・H28：小倉総合特別支援学校、門司総合特別支援学校開校
- ・H29：小池特別支援学校整備着手
- ・H31：「特別支援教室」（校内通級）の導入

※特別支援教室（校内通級）

発達障害などの障害のある児童生徒が、他校に通級することなく、自校の通常の学級で教育を受けながら、必要な時間に特別な指導を受けることができる。

##### ②特別支援教育を推進する体制整備

	H27	H28	H29	H30
特別支援教育学習支援員(人)	5	5	19	37
特別支援教育介助員(人)	21	21	21	26
特別支援学級補助講師(人)	47	53	55	55
学校配置看護師(人)	5	7	7	7

##### ③理解啓発

###### ○「教材・教具・作品づくり」事業

地域住民や企業、大学生等の市民ボランティアが特別支援学校の児童生徒の状態に合わせた教材・教具を作製したり、共同で作品を作ったりして、障害者理解を深める。

H28：1校（小倉総合特別支援学校）

H29：2校（八幡特別支援学校で新たに実施）

H30：4校（小倉北特別支援学校、門司総合特別支援学校で新たに実施）

###### ○「心のバリアフリー推進事業」

H29から実施。7行政区ごとに小・中学校と特別支援学校が共同で、スポーツや文化活動を通して交流及び共同学習を実施。



移動式ベッド



いろいろペガールボール交流

#### いじめ、不登校等へのきめ細やかな対応

##### ④いじめへの対応

###### ○いじめ基本方針に基づいた取組み

- ・H29年度から、「中学校区ミーティング」を開催
- ・全校一斉のいじめに関するアンケート調査と面談

##### ⑤長期欠席（不登校）への対応

- ・「小中連携SUTEKIアンケート」による長期欠席の未然防止



いじめミーティング



- ・「不登校状態の子どもに寄り添った次への一步応援事業」 H30：18人
- ・少年支援室との連携（子ども家庭局との連携）
- ・民間フリースクール等との連携

## ⑥スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの配置・活用

### ○スクールソーシャルワーカー

	H27	H28	H29	H30
配置人数（人）	8	9	12	12
支援対象児童生徒数（人）	445	557	568	589

### ○スクールカウンセラー

- ・全62中学校・特別支援学校に配置、全小学校に派遣
- ・H30：小5全員面接

	H27	H28	H29	H30
相談件数（件）	30,837	32,351	28,958	41,385

## 子どもの貧困対策

### ⑦関係部局が連携した取組みの推進

子どもの貧困対策は、子育て、福祉、教育をはじめ、雇用、住環境など幅広い分野にわたる取組みであり、子どもの貧困対策に係る関係課長会議を設置し、全市的・全庁的な立場から、貧困の現状や課題を共有し、総合的な対策を推進。

### ⑧教育委員会での取組み（経済的支援と学習支援）

#### ○就学援助、市奨学金

	H27	H28	H29	H30
就学援助（人）	14,147	13,649	13,226	12,830
就学援助率（%）	19.7	19.2	18.8	18.4
市奨学資金貸付状況（人）	648	604	574	516

#### ○子どもの学習支援（子どもひまわり学習塾を含めた補充学習の活用）

	H27	H28	H29	H30
小学校	70校	90校	100校	101校
中学校	62校	62校	62校	62校
学校型	21校	22校	24校	26校
拠点型	41校	40校	38校	36校
	5ヶ所			

### ⑨複雑化する社会的課題への対応

- ・虐待や性的少数者を含め、さまざまな課題を抱える児童生徒に対して、関係部局をはじめ、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携しながら、きめ細かな対応を行っていく。
- ・自殺予防教育など、SOSを発信する力の育成に努めるとともに、小5全員面接など、相談しやすい環境整備に取り組む。

## 4. 少子・高齢化社会を踏まえた公共施設マネジメント

○行財政改革大綱を踏まえた公共施設マネジメント

### (1) 公共施設マネジメント実行計画

公共施設の現状と課題を踏まえ、保有する全ての公共施設を対象に、

- ・市全体の公共施設の総量抑制（保有量の縮減）
- ・施設の維持管理・運営方法の見直し
- ・資産の有効活用

など、公共施設に関する将来的な財政負担を軽減するための取組みである「北九州市公共施設マネジメント実行計画」を策定

### (2) 図書館のマネジメントの考え方

○中央図書館：中核拠点施設として存続

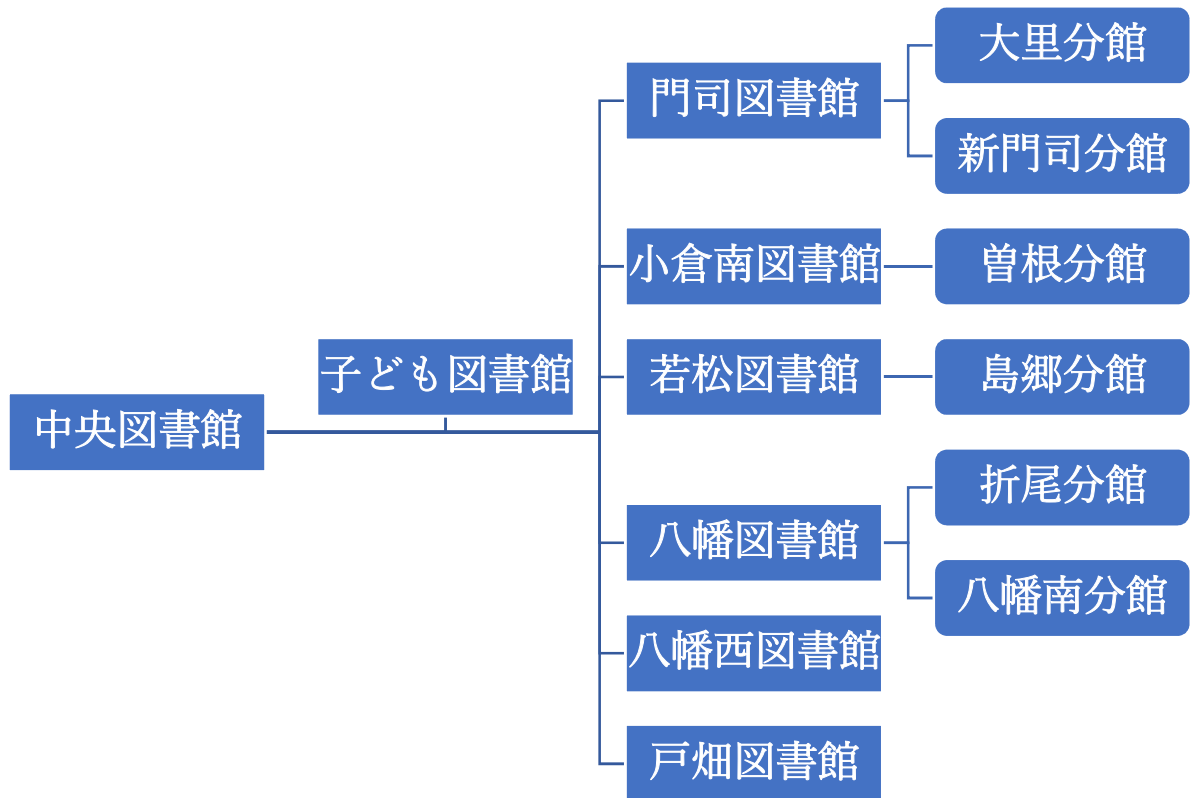
○地区図書館：地域拠点施設として存続（小倉北区以外の各行政区）

○分館：大規模区役所出張所周辺の施設は存続。それ以外の分館は、地区図書館等の整備状況や人口動態、利用実態等の推移をみながら縮減。

### (3) 取組状況について

年度	H27	H28	H29	H30
設置等		4月 八幡図書館 (移転・開館)		3月 小倉南図書館 (開館)  12月 子ども図書館 (開館)
廃止			8月 勝山分館 (廃止)	2月 企救分館 (廃止) 3月 戸畑分館 (廃止) 3月 国際友好記念図書館 (廃止) H31.3月 八幡東分館 (廃止)

(4) 図書館の機構 (平成31年4月1日)



子ども図書館



小倉南図書館